

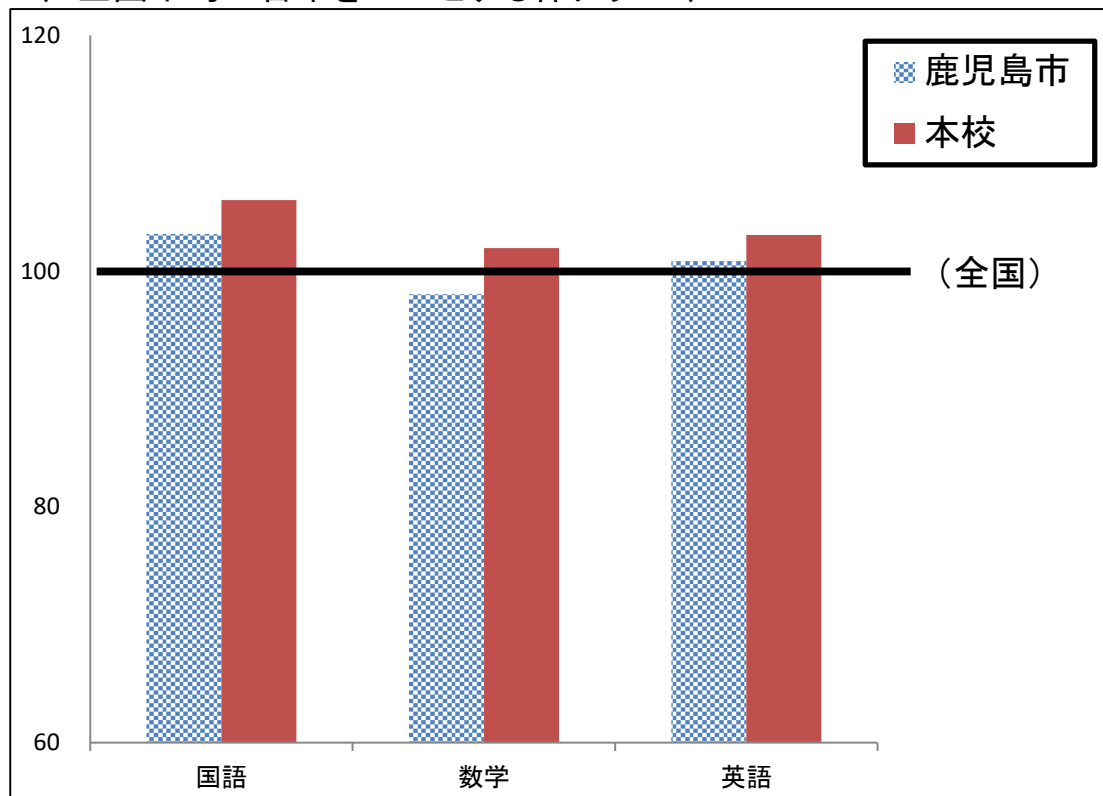
別紙(提出用)

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

鹿児島市立武中学校

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語〉

情報の扱い方や読書に対する考えを書くという問いによく答えられていた。思考判断は平均以上の力がついてしたが、語句の意味や用法などの基礎的事項に課題が見られる。漢字や語句の意味用法等の定着を図る確認テストなどを取り入れていきたい。

〈数学〉

理由や説明を記述する問題に対して課題が残った。学び合い活動をとおして、根拠を明らかにした説明を周囲とともに意見交換することで、数学的に表現する力を付ける指導の工夫に取り組んでいきたい。

〈英語〉

「書くこと」に対して苦手意識が強いようである。特に、何かを説明するために、まとまりのある文章を書くことの正答率が低かった。まとまりのある英文を、書くために、基本的な英文を練習することが大切だが、例文の丸暗記ではなく、様々な場面を英語で表現する練習が必要だと感じた。学習を進めていくうえで、そのような場面を設定し、生徒に取り組ませるようにしたい。

〈生徒質問紙〉

「読書が好き」「国語の授業で学習したことは将来役に立つ」「数学の授業がよく分かる」「英語の授業でまとまった内容を英語で発表する活動をおこなった」と答える割合が、県・全国を大きく上回っており、そのことが今回の結果に繋がっていると思われる。一方で、「土日の学習時間」が全国・県よりかなり少ない。メディア娯楽の時間が多く、家庭学習を計画的に進めることができていないと推察される。メディア管理については、学校で計画的・継続的に指導し、さらに保護者と連携しながら家庭生活の見直しにも取り組むことが必要と感じる。家庭学習時間を増やすことについては、まず授業とリンクした宿題の出し方を検討し、タブレットの活用も進めていきたい。